

ぱれっと

2012
8月
No.156



サポセンサロンが始まりました。*詳しくはP4へ

P 2~3

特集 | 放射能を正しく知ること

小さき花 市民の放射能測定室 仙台

5年後10年後子どもたちが健やかに育つ会 せんだい・みやぎ

P 4

サポセン事業報告 | サポセンサロン パート1 6月29日(金)開催

P 5

シニア横丁 | 地域でともに暮らす仲間をつくろう 岩瀬雅昭さん

P 6

市民活動サポートセンターからのお知らせ

特集

放射能を正しく知ること

一番小さき人、困っている人、必要としている人のための放射能測定室です。

小さき花 市民の放射能測定室 仙台

石森秀彦さんは、大学で農業を学び、アジアやアフリカに農業を手伝いに行った後、仙台に戻り自然・有機農業を営んでいました。福島第1原発事故を受けて「自分は正直に生きたい、加害者にはなれない」との思いから生活の糧である野菜の配達を止め、みんなの安全を守るために放射能と向き合う活動を開始しました。



始まりは、身近な知りたいことを知って考えよう

2011年11月27日「小さき花 市民の放射能測定室 仙台」は開所しました。代表の石森秀彦さんは、福島第1原発事故による放射能汚染に対しての子どもたちの安全な食べ物は？飲み物は？安全な場所は？といった自分たちが知りたい情報を、国や県に頼るだけでなく、自ら積極的に知ることが必要と考えました。そこで、「市民自ら放射能を測定し、判断できるようにする」ことで、自らの意思を活かす契機となり、みんなの被ばくを少なくすることにつながると考え開所しました。

自分のこととして「放射能」を考える

石森さんは、仙台市太白区坪沼にて自給自足の有機自然農法を実践し、耕さないまま栽培する不耕起農業を行って、安心・安全でおいしい作物を宅配で提供してきていましたが、自宅から2kmにある畑の小松菜から国の暫定基準を超えるセシウムが検出されたことを契機に、「自分が加害者になってしまわないように」と農業を休業。「こんな事を調べたかった」「こんな事が解れば助かるのに」「あんな事を知っていれば安心」などの声に応えようと決心し、放射能測定装置を自らの蓄えと知人からのカンパで購入しました。石森さんは、みんなでデータを共有し、自らのこととしてよく考え、頭を動かし、心を澄まして、できるだけ被ばくを少なくするための判断の支えになろうと考えています。

「小さき花SSS測定室」の取り組む4つの課題

立ち上げた「小さき花 市民の放射能測定室 仙台」は、①みんなのための実験、研究の募集 ②農家復興

のための土壌調査プロジェクト ③安全な食べ物流通のために計って販売できるような農家と食べる人をつなぐプロジェクト ④原発に頼らない為のソーラー自然エネルギーシステムの立ち上げに取り組む課題を掲げ推進しています。

調べたいこと募集中！みなさんの力で継続を

現在行っている放射能測定では、機器購入で450万円かかり、電気代等維持するのも大変です。カンパでの助力もいただいておりますが、1検体3,000円の測定料金（場合によっては無料で行っています）で行って賛同いただけるみなさんの力で継続していこうと考えています。

これからは、原発20km圏内から避難してきた方や石巻で家を流された方、障がい者や高齢者、震災で仕事をなくされた方などをスタッフにし、雇用につなげようとも考えています。また、エネルギーは自給する方が社会のためにも個人の生活のためにも良いのではと、自然エネルギーを確実に増やすことによって、地球にとって負担のない生き方、やさしい生き方を創造していこうと思っています。（堀隆一）

○団体情報○

小さき花 市民の放射能測定室 仙台
(小さき花SSS測定室)

○連絡先○

代表者 石森秀彦
TEL 022-302-3853 (携帯) 090-1397-0781
E-mail chiisakihanasss@gmail.com
ブログ <http://ameblo.jp/foreston39/>

不安を抱えるすべてのお母さんのために

5年後10年後子どもたちが健やかに育つ会 せんだい・みやぎ

2011年の原発事故を受け、5年後10年後も子どもたちが健やかに育ってほしいと思うお母さんたちが立ち上げた会です。運営部のみなさんに立ち上げのきっかけや活動に対する想いをお聞きしました。

(写真右から:菅原昌子さん、阿部真理さん、飯田利加さん)▶



不安からの始まり

「5年後10年後子どもたちが健やかに育つ会」は、2011年の福島第一原発事故後に神奈川県葉山で立ち上がりました。中心メンバーは、放射能の影響を心配する小さい子どもを持つお母さんたちです。事故直後、正しい情報が入って来ず、不安は膨らむ一方でした。まず、行政に放射線量の測定と情報公開を求める請願書を提出しました。今では毎日放射線量の測定結果が公表されていますが、当初は実施予定もありませんでした。宮城県でも「5年後10年後子どもたちが健やかに育つ会せんだい・みやぎ」が発足し、5月に要請書を提出。同じ思いをもったお母さんたちの活動は、全国に広まりました。「当時のメンバーは避難して、大半が入れ替わりましたが、ここに住み続けるためにできることをみんなで実践しています」と運営メンバーの皆さん。不安や現状に向き合い、前を向いて活動しているらしいです。

今年の二本柱

5年後10年後子どもたちが健やかに育つ会せんだい・みやぎは、二つの方針を大切にします。

①「脱原発」を表に出さず、どんなお母さんにも門戸を広げる。

「電力関係者の中にも、農業・漁業に携わる方の中にも、不安を抱えているお母さんがいます。

すべてのお母さんを受け入れるために、今後も「脱原発」は掲げません」

②自分の家庭を第一にし、無理に活動しない。

行政等への働きかけと並行して、情報収集や勉強会、他の団体と連携しながら講演会も開催しています。免疫力を高める料理教室や、ヨガなど、楽しむ要素も忘れません。震災から1年後の2012年3月に行ったイベントでは、パネルディスカッションや情報コーナー、産直を実施。定員を超える申し込みがあり、放射能に対する不安を抱えている人の多さを実感したそうです。

しゃべり場でほっと一息

不定期開催のしゃべり場は、大切な活動のひとつです。仙台で放射能の影響を心配するお母さんたちは、周囲との意識のギャップに悩み、不安を抱え込んでしまうことが多いそうです。「学校やお医者さんに相談しても、心配していること自体を否定されると、精神的に追い詰められてしまいます。お母さんの余裕がなくなると、子どもにも影響します。ここでは普段気になっていることを安心して分かち合えます。解決や不安の解消にはならなくとも、少しでも前向きになれる要素を持って帰ってもらいたいです」としゃべり場へ寄せるメンバーの想いを語ってくれました。

現在秋祭りを企画中とのことです。「放射能への不安はあるけれど、楽しむことも大切にしてほしい。不安を抱えるお母さんたちがつながり、楽しみながら放射能とうまくつきあうための知識を得られる内容を考えています。これからも、家族を家庭を大事にして、できる人ができるタイミングで活動に協力し、長く活動を続けていきたいです」。

子どもたちの健やかな成長のために、お母さんたちの活動は続きます。(難波未由希)

○団体情報○

5年後10年後子どもたちが健やかに育つ会 せんだい・みやぎ

5年後10年後、未来の子どもたちが健やかに育つことができるよう①知る②深める③伝える④つながる⑤働きかけるの5つの活動を行っています。一緒に活動する運営部のメンバーも常時募集しています。活動の様子はブログ、ホームページ、ツイッターから。

○連絡先○

代表者 玉手万理

HP <http://sukoyakasendaimiyagi.web.fc2.com/>

ブログ <http://d.hatena.ne.jp/sukoyakasendaimiyagi/>

twitterアカウント @sukoyakasendai

E-mail 5y10y.miyagi.sendai@gmail.com

サポセン 事業報告

サポセンでは、参加者同士の情報交換や学びあいの場を通して復興の今を知り、社会にある資源（人材、物資、資金、ノウハウ、情報など）を被災地域で活動する方々につなげる企画、「サポセンサロン」を始めました。



復興の今を知る場

サポセンサロン

「地域で使える助成金 赤い羽根共同募金会」編

現在、被災地域の方々や仮設住宅自治会など被災者の方々が中心となり、自分たちの地域の復興やコミュニティ形成の活動が起きています。

今回は、社会福祉法人宮城県共同募金会の八木明彦さんを講師にお招きし、初めて助成金を申請する方でもわかりやすい「赤い羽根共同募金 地域ボランティア活動支援事業」の説明会を開催しました。

赤い羽根共同募金 説明会

◎八木明彦さんのお話

- ・赤い羽根共同募金とは？
- ・東日本大震災発災後の赤い羽根共同募金会の動き
- ・赤い羽根共同募金で扱う助成金について
- ・地域ボランティア活動支援事業の説明
- ・質疑応答

八木さんがお話していたのは「これから活動を行う団体にとっては、使いやすく、申請しやすい助成金です！」ということです。確かに応募様式もわかりやすく、活動に必要な多くの経費が認められ、申請から審査までの時間が短い（約1ヶ月）という助成金です。

ただ、申請の受付は市町村委員会（仙台市であれば仙台市社会福祉協議会）が窓口となりますので、具体的な申請方法は市町村委員会受付担当にお気軽にご相談ください。

個別相談+交流タイム！

助成金説明会終了後は、「八木さんによる個別相談会+参加者同士の交流タイム」。個別相談会に参加したのは若林区を拠点に活動する団体さん。長時間にわたって八木さんと話し込み、スッキリとした表情でお帰りになりました。

参加者同士の交流タイムでは、今回の参加者は宮城野区の津波被害地域を拠点に活動する団体さんが多かったという事もあり、かなり長時間にわたって話し込んでいらっしゃいました。

お話を伺うと、活動地域は近い地区なのでお互いに顔は知っているが、長時間お話しするような機会は初めてだったとのことでした。こういった所からさらなる連携が生まれ、地域の力の底上げになればうれしいですね。

（菊地竜生）

まだ＊これ
**シニア
横丁日記**

「シニア横丁」は、まだまだ、これから！50歳後半からのセカンドライフに意欲を燃やす人や情報が集まる場所。これから新しい一歩を踏み出そうとしている方は、ちょっと寄っていきませんか。

地域でともに暮らす仲間をつくろう

桜ヶ丘7丁目町内会「ふれあいサロン」世話人会事務局長 岩瀬雅昭さん（67歳）

定年退職直後の半年間は、自分自身の居場所づくりのため、いろいろ模索を続け、地域の中で自分の活躍できる場所はどこにあるのかを真剣に探す毎日だったといいます。現在は、町内の役員を務めたり、町内で「ふれあいサロン」を運営したりするなど充実した日々を送っていらっしゃいます。どのように、自ら活動の場を作ってきたのかをじっくりお伺いしました。



自分を棚卸しし、次のステージに備える

岩瀬さんは、現役時代は製薬会社の営業マンとして38年間働き、希望退職を利用し58歳の時早期に退職しました。50代頃から定年を意識し始めるようになると、第二の仕事に就くなら、人のために尽くし自分の得意なところを生かせる仕事をしたと考えていたそうです。

では、自分はいったい何が得意なのか。岩瀬さんは、これまでを振り返って自分は人前で話すこと、相談を受けて話を聞くことが好きなんだと気付きました。それは、仕事でプレゼンテーションが上手いと褒められたことや、得意先との勉強会の世話人、飲み会の幹事まで、まとめ役を買って出ることが多かったことを思い出したからだといいます。

想いの実現のため、ライフセミナーへの参加や生涯学習インストラクター資格取得、健康生きがいづくりアドバイザー資格取得と市民センターでの講演活動、キャリアカウンセラー養成講座を受講するなど、着々とスキルを蓄積していきました。

このような努力が評価され、就労支援コーディネーターとして就労支援や相談業務、セミナー企画等の仕事に就くことが出来ました。備えがなければ、生きがいとなる仕事は転がってこないというのが岩瀬さんの持論のようです。

地域に自分の居場所づくりをしよう

第二の職場も退職となり、今度は地域で活躍するため町内に自分の居場所づくりを考えていた時

です。町内会の役員、民生委員の方等が中心となって「ふれあいサロン」を作ろうという話になりました。これはチャンスと、岩瀬さんは世話人会の事務局長を引き受けたのです。サロンの周知や参加を促す工夫等、岩瀬さんの手腕が発揮されました。

サロンの定例会は月一回。毎月20～30人程の男女が参加し、ゲストを招いての講話とその後食事会やおしゃべりを行います。自主的に企画運営する8つのクラブ活動もあります。どれも参加は自由。サロンの活動は町内会の下部組織としてみなさんに喜ばれています。将来的には「遠い親戚より近くの他人」と言われるように、「地域で困ったときはお互いに助け合って暮らせるような仕組み」を町内に作っていきたくと構想を練っているそうです。

定年後町内に馴染んでいくことはなかなか難しいものです。そのきっかけづくりに「ふれあいサロン」の存在は重要な役割を果たしているようです。

会社から地域社会へシフトチェンジ

「実は20代の頃、ハワイアンバンドでギター担当だったんです」と岩瀬さん。現在もピアノ教室に通いレッスンを受ける等趣味も多彩です。「人と人がつながって活動範囲が広がりました。数年前までは、地域住民の顔も名前も知らなかったけど、今では井戸端会議にも混ぜてもらえるようになりました」と楽しそうです。「町内には素晴らしい人がいらっしゃる。まず肩書を外して、自分の得意なことを生かしながら、それぞれが魅力ある人間になっていけるとよいですね」と語る岩瀬さん。これからの活躍、ますます期待しています。（葛西淳子）

市民活動サポートセンターからのお知らせ

8
/
18

NPOいろは塾

90分でNPOの基礎を学ぼう!



開催!

日 時：8月18日(土) 午後2時～午後3時30分
 会 場：市民活動サポートセンター4階
 研修室5
 参加費：無料
 定 員：15名(先着順)
 内 容：NPOってどんな組織なの？NPOのしくみや参加方法を知りたい。そんな方にお勧めの講座です。最後のサポセンガイドツアーもお楽しみに。
 受 付：8月6日(月)より受付開始
 チラシ裏面の申込書にご記入の上、サポートセンター窓口又は、FAXにてお申込みください。お電話でも受け付けております
 TEL：022-212-3010 FAX：022-268-4042

主催：仙台市(仙台市市民活動サポートセンター)
 企画/実施：(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

8
/
31

シニアサロン

お役にたいあなたのための
得意なこと、好きなことで
地域貢献してみませんか!

開催!

日 時：8月31日(金) 午後1時～午後3時
 会 場：市民活動サポートセンター3階
 相談・つながるサロン
 ゲスト：菊地治枝さん
 お手玉サークル「たんぼぼ」主宰
 参加費：500円/お手玉2個付(当日受付にて)
 内 容：ゲストによる活動紹介・お手玉パフォーマンスの実演・Myお手玉を作ってみよう、遊んでみよう。
 対 象：地域に密着した活動に、興味・関心のある方。地域で自分を活かすヒントを求めている方。趣味や特技を活かした震災復興支援、被災者支援活動に意欲、関心を持っている方。
 申 込：仙台市シニア活動支援センター
 (担当：小林・葛西・小松)
 TEL：022-217-3983 FAX：022-217-3984

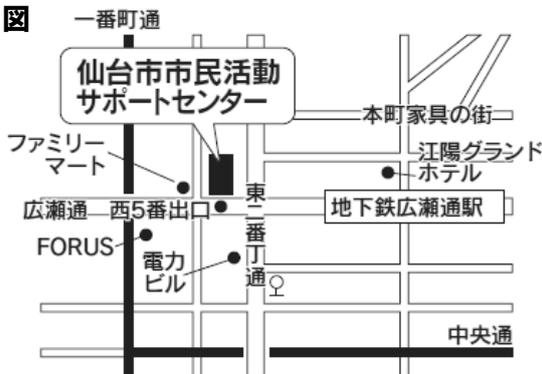
■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 仙台市シニア活動支援センターとは

これまで同様、シニア世代の地域・社会参加活動を応援していきますので、お気軽にお問合せください。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車で来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車・駐輪は、周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

【最寄のバス停】電力ビル前、商工会議所前

【地下鉄】広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■ 開館時間

平日/午前9時～午後10時
 日祝/午前9時～午後6時

■ 8月の休館日

第2水曜日 8/8
 第4水曜日 8/22

編集後記：

新事業・サポセンサロンがスタートしました。毎月1回、3階の相談・つながるサロンを会場にいろいろなテーマを設けて開催します。被災地域で活動している方・何か役に立ちたいという思いをお持ちの方、ぜひ一度ご参加ください。(スタッフ一同)

発行：仙台市市民活動サポートセンター

仙台市シニア活動支援センター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

ブログ <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2012年8月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 松村翔子

●ばれっとは、市内の公共施設、県内外のNPO支援センターなどに送付しています。

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]